

# 令和6年度第1回奈良県社会教育委員会議（概要） 〔報告書〕

- 1 日 時 令和6年11月12日（火） 14:00～16:00
- 2 場 所 奈良県立教育研究所 中講座室5
- 3 出席委員 委員名簿記載のうち  
大谷裕美子 奥田保枝 河崎智恵 工藤将之 杉山晋平 高島幸子 高田聡  
中川里美 東野佳代子 疋田進一 福本亜紀 森崎和代 吉田甚造（敬称略）13名
- 4 内 容 （1）開 会 あいさつ 奈良県教育委員会教育長 大石健一  
（2）委員紹介  
（3）議 事

- ①奈良県における社会教育の現状について  
②奈良県社会教育の推進について



## 5 委員からの主な意見

### 【奈良県における社会教育の現状について】

- 各市町村の社会教育委員会議の中で、何が決まり、どのように社会教育が推進されているかを知る必要がある。
- 各市町村における社会教育委員の高齢化が進んでいる。社会教育の担い手の人材育成が重要である。
- 県内の一部の公民館や地域によって寺や神社が、子どもの居場所として機能している。
- 子どもたちの居場所づくりは、コミュニティ・スクールという制度を効果的に活用し、地域の方と学び合いながら発展させていくところもあれば、住民が自発的に取り組んで進めているところもある。



### 【奈良県社会教育の推進について】

- PTA活動に積極的に関わっていた方たちを地域の社会教育の担い手に導く必要がある。
- 一般の人たちに向けて、社会教育について分かりやすい説明が必要である。
- 社会教育人材の育成として、社会教育主事講習があるが20日間という期間は、若い人が受講するためにはハードルが高い。県独自で1日、2日程度で県公認の社会教育士のような認定制度を作ってもよいのではないかと思う。
- 定年後に社会教育主事講習を受講して、社会教育士の称号を得て地域で活動したいと考えている方も多いと聞く。しかし、地域によっては活動をする受け皿がない所もある。行政で受け皿を作る必要がある。
- まちづくりに社会教育の視点が必要であることの理解が進めば、社会教育主事や社会教育士の必要性も認知されると思う。
- 社会教育の人材育成として、県で実施している社会教育実践講座はよい例だと思う。
- 社会教育主事や社会教育士が活躍している例を発信して、役割や魅力を伝えることが必要であると思う。

